

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	新潟電子工業株式会社様改築工事	
建設地	新潟県新潟市南区上八枚字榎下浦1310番1	
用途地域	市街化調整区域	
建物用途	工場,	
竣工年	2022年7月 竣工	
敷地面積	7,387.54 m ²	
建築面積	2,603.61 m ²	
延床面積	4,340.57 m ²	
階数	地上2F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2021年12月23日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{42.0}{41.3} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.0
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.8		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 -
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	LR2.1.1 4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 1.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

節水機器やリサイクル材(躯体材料以外)を活用して、環境に配慮している。躯体と仕上げ材は容易に分別可能、また再利用できるユニット部材を用いており、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。

CASBEE®新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟電子工業株式会社様改築工事	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市南区上八枚字柳下浦1310番1	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	149 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 竣工	評価の実施日	2021年12月23日
敷地面積	7,388 m ²	作成者	小林 秀彦
建築面積	2,604 m ²	確認日	2021年12月23日
延床面積	4,341 m ²	確認者	小林 秀彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
総合 仕上げ材や節水機器など、環境に配慮した建物となっている。内部は広々とした空間となっており、効率良く運営できるように配慮している。		特になし
Q1 室内環境 昼光率の値が高く、自然光を利用している。F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用して、室内の空気環境に配慮している。	Q2 サービス性能 主要内装仕上材は耐用年数の長い部材を選択、また空調・給排水配管は更新必要間隔の長い管材を選択しており、建物の長寿化を図っている。また、階高や空間にゆとりを持たせることにより、建物利用者にとっての快適さが得られている。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺のまちなみに調和できるよう、白や茶色を基調とした落ち着いた外観デザインとしている。
LR1 エネルギー LED照明により、設備システムの高効率化を図っている。	LR2 資源・マテリアル 節水機器やリサイクル材(躯体材料以外)を活用して、環境に配慮している。躯体と仕上げ材は容易に分別可能、また再利用できるユニット部材を用いており、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用しておらず、環境配慮に努めている。自転車小屋や来客用駐車場を確保しており、また出入口は交差点付近を避け、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。屋外照明や屋内照明の漏れ光、広告物照明における対策を取り、光害を抑制している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される